

理 事 会 議 案 第 2 号
評 議 員 会 議 案 第 1 号

平 成 2 9 年 度

事 業 報 告

社 会 福 祉 法 人 牧 之 原 市 社 会 福 祉 協 議 会

【1】概況

第2次地域福祉活動計画の4年目を終え、多くの事業を計画通り取り組めた。取り組んでいく中で、第3次地域福祉活動計画に向け点検評価を行い、行政と共に牧之原市の福祉の充実を図り、「ふれあいを大切にしたい生涯安心して暮らすことのできるまちづくり」の実現に向け事業を推進した。

生活困窮者の対応については、長引く景気低迷や急激な超高齢社会への対応等、社協の取り組む事業は年々重要性が増している。この事業も3年目を迎え、民生委員児童委員や市の関連部署と連携を図り、市民に密着した相談を行ってきたが、生活困窮者の増加は本市においても例外ではなく、生活福祉資金の貸し付けや行政の生活保護担当と連携するケースが増えている。

地域支え合いとして、高齢者のちょっとした困りごとに、ちょっとしたお手伝いをする、らいふサポーター派遣事業「あるたす」がスタートした。

地域包括ケアシステムの構築については、社協が本来実施すべき事業でもある「地域づくり」が重要視される制度となったことから、市と連携を図り、養成講座の実施や、地域支援マップづくりなど地域に密着した事業展開を実施した。

在宅福祉事業においては、平成30年3月にデイサービスセンターうたりに代わる新規施設「社協陽だまり」が完成し落成式を開催することができた。デイサービス事業の運営は厳しい状況下にあるが、各事業所ごとの特色を出せるよう職員全員が工夫していくことで、安定した経営ができるよう引き続き改善を進めていく。

今後も地域福祉を推進する社会福祉法人として、役職員が一丸となって住民ニーズに基づいた事業を展開していく。

【2】主要事業

基本目標Ⅰ 安心して暮らすことのできるまちづくり

施策1 相談窓口の充実

悩みごとや心配ごとを持つ方が気軽に相談できる窓口を下記のように設置し、総合相談及び援助活動を行った。

種類	開設日	場所	相談活動の内容
福祉総合相談	月～金曜日 (8:15～17:00)	相良総合センターい～ら	社会福祉協議会の職員が、様々な福祉の相談(ボランティア・介護・サロン活動・生活困窮など)に電話や訪問など、様々なケースに対応した。
	月～金曜日 (8:15～17:00)	老人福祉センター	
心配ごと相談	毎月第2水曜日 (9:00～11:30)	市民相談センター	市民からの多様な相談に対応するため、民生委員児童委員と司法書士が相談に対応した。 ●主な内容 財産、離婚
	毎月第4水曜日 (9:00～11:30)		
	第5水曜日 (9:00～11:30)		
法律相談	毎月第1水曜日 (10:00～15:00)	市民相談センター	市民や他市町からの多様な相談に対応するため、弁護士、人権擁護委員、行政相談員が相談に対応した。 ●主な内容 財産、離婚、人権・法律
	毎月第3水曜日 (10:00～15:00)		

(1)相談窓口の利便性の充実を図り、地域ニーズの把握に努めた。

【福祉総合相談】

相談件数 1,023件(※相談内容は重複有)

受付方法		電話	来所	訪問	会議				計
		332	254	408	29				1,023
日本人	相談者	一般	二次予防	要支援者	要介護者	障害者	その他		
	高齢者	196	27	6	13	17	0		259
	60～64	93		0	2	23	0		118
	59歳以下	543		0	1	85	0		629
外国人	相談者	一般	二次予防	要支援者	要介護者	障害者	その他		
	高齢者	0	0	0	0	0	0		0
	60～64	0		1	0	0	0		1
	60歳以下	16		0	0	0	0		16
相談内容		介護問題	医療疾患	施設病院	心理的問題	経済的問題	生活問題	その他	
		50	78	4	291	927	987	11	2,348

【心配ごと・法律相談】

開設日数 及び延数	相談事項と件数																				
	生計	年金	職業・生業	住宅	家族	結婚	離婚	健康・衛生	医療	精神衛生	人権・法律	財産	事故	児童福祉・母子保健	教育・青少年	障がい児者福祉	母子・父子福祉	老人福祉	苦情	その他	
(開設日数) 心配 26日 法律 24日																					
(延べ件数) 心配 62件 法律 146件 計 208件																					
心配ごと相談件数	14	0	2	1	7	0	4	0	0	0	1	26	1	0	0	0	0	1	3	2	
法律相談件数	19	0	5	4	14	2	32	0	4	0	10	38	5	0	1	0	0	0	7	5	
合計	33	0	7	5	21	2	36	0	4	0	11	64	6	0	1	0	0	1	10	7	

【フィーリングカップル事業】

実施日	会場	活動の内容
平成30年3月3日(土) 9時～17時	浜松方面	25歳以上の独身男女(市内外)を対象として実施した。当日は男性6名、女性4名の参加があった。バスでパワースポット巡り・ランチバイキングへ行き、会話をする時間を長く取ることで、賑やかで良い雰囲気になった。1組のカップルが成立した。

(2) 無料相談の周知を進め、相談体制を整備した。

① ふくしだよりに掲載

2ヶ月に1回全戸配布するふくしだよりのお知らせに、翌月の相談日や会場などを掲載し市民に周知している。

② ホームページの活用

「困りごとを相談したい方に」に各種相談内容や会場、日程等を掲載している。また、Eメールでも対応している。

【アドレス】<http://www.makinohara-shakyo.jp>

(3) 相談員や職員のスキルアップに努めた。

① 相談員について

民生委員児童委員の定例会にて、民生委員のみなさんが相談員として参加している意味や役割を伝えている。

② 外部研修への参加

職員の相談スキル向上のため、県社協が主催する各種制度の研修会や講習会に参加している。また、日頃から職員間で情報を共有している。

☆評価

福祉総合相談の相談件数については昨年と比べてほぼ横ばいであるが、若い年齢層の相談者による心理的問題と経済的問題に関する内容が増えている。生活困窮者自立支援法の相談先として認知が進んできていると感じる。加えて、多重債務を抱える相談者が多いため、法律家につなぐケースが増えている。

フィーリングカップル事業では、地元の民間企業や他団体が結婚に関する事業を活発に開催していることから社協事業としては次年度以降、事業を見合わせる。

☆課題

心配ごと相談、法律相談については、今後社協や包括に入る可能性のある相談（生活困窮や貸付、成年後見制度、介護問題等）について事前に把握することができる機会となっている点や法律的な考え方を知る機会となっている。そのため、今後は心配ごと相談などへの社協職員の同席を図り、早期に問題解決に向けて、法律家との連携強化に努めていきたい。

施策2 災害時要援護者(避難行動要支援者)対策の充実

(1) 行政や県社会福祉協議会、県ボランティア協会など関係機関との災害時ネットワークの充実を図った。

① 災害時ボランティアコーディネーター及び市防災課、社会福祉課、社協等が市の防災対策等についての連絡会を実施した。

【10月25日】・災害ボランティアの宿泊施設・野営場所の確保について

・県外社協との災害時の連携について等 13名

【2月15日】・災害時非常用備品の保管場所について

・災害時ボランティアセンター運営マニュアルの見直し状況について 15名

② 松川町社会福祉協議会(長野県)との災害時相互応援に係る研究情報交換会を実施した。

【10月5日】 第1回 牧之原市社協から松川町社協へ訪問

【11月10日】 第2回 松川町社協来所

(2) 災害対策マニュアルの定期的な見直しを行い、災害時に備えた。

① 災害対策マニュアル

マニュアルは年度ごと更新し、常に最新の状態としている。また、災害時ボランティアコーディネーターの定例会での意見等も内容に反映させている。

(3)障がい者(児)や妊産婦等要援護者への防災対策を検討した。

①防災対策マニュアルの検討

視覚に障がいのある職員を中心に、視覚障がい者向け災害マニュアルの作成を行っている。

②避難所体験を実施

障がい者団体より「災害発生時、避難所等で受入してくれるのか心配」との声があり、相良総合センターい〜らを会場に、災害ボランティアコーディネーターの協力を得て、避難所体験を実施した。当日は、さがら作業所、あじさい、手をつなぐ育成会の会員等が参加し、非常食試食、携帯トイレの使用方法等を体験した。

【2月6日】相良総合センターい〜ら 50名

(4)災害ボランティアコーディネーターの支援、連携及び育成を図った。

①災害ボランティアコーディネーターの育成・充実・連携

災害ボランティアコーディネーター養成講座修了者と災害ボランティアに関心がある市内在住者16名が会員となり、相良総合センターい〜らを会場に毎月第1水曜日に定例会、第4水曜日に理事会を開催した。定例会では、災害時のマニュアルの検討や本部運営に関する協議等、理事会では定例会の内容に関する協議等を行った。

定例会

【4月11日】 牧之原市災害VCO総会 18名

【5月16日】 今年度活動計画、定例会の進め方、災害VCマニュアル見直し等 9名

【6月7日】 災害VCマニュアル見直し、災害VCO養成講座募集案内について等 8名

【7月5日】 クロスロードゲーム、災害VCマニュアル見直し、ふれあい広場の参加について等 9名

【8月2日】 災害VCマニュアル見直し、防災講座の実施について等 8名

【9月3日】 神戸大学生との意見交換会 11名

【9月6日】 災害VCマニュアル見直し、神戸大学生との交流結果について等 9名

【10月25日】 災害ボランティアの宿泊施設・野営場所の確保について等13名

【11月8日】 ふれあい広場の参加結果について、災害VCオリエンテーションの掲示内容等3名

【12月5日】 第1回牧之原市関係機関との災害VCO連絡会の結果について等6名

【1月11日】 災害VC運営準備について等7名

【2月15日】 災害時VC運営マニュアルの見直し状況について等15名

【3月7日】 平成30年度事業計画及び役員の改選について等7名

理事会

【4月28日】 4名 【10月25日】 13名

【5月24日】 6名 【11月29日】 4名

【6月28日】 5名 【12月27日】 2名

【7月24日】 2名 【1月24日】 5名

【8月23日】 4名 【2月28日】 6名

【9月27日】 4名 【3月28日】 4名

②災害ボランティア交流

神戸大学から災害ボランティアサークル「震災救援隊」が牧之原市災害ボランティアコーディネーターとの交流を目的に牧之原市を訪問。初日は親睦を兼ねた交流会を行った。2日目はグループワーク形式で、災害について話し合いを行った。

【9月2日・3日】神戸大学生・牧之原市災害ボランティアコーディネーター他 11名

③さざんかふれあい広場への参加

「災害弱者の避難生活」をテーマとし、展示(リクライニング式車イス、女性用災用品、津波マップ、簡易トイレ、防災講座の実施写真等)、携帯トイレについてのアンケートを実施した。

【10月1日】総合健康福祉センターさざんか 4名

☆評価

牧之原市災害ボランティアコーディネーターの会議に毎月参加し、意見交換することで連携が図れている。また、災害VC運営マニュアルの見直しを行ったことにより、具体的で最新のマニュアルとなった。

☆課題

牧之原市災害ボランティアコーディネーターへの新規の参加者が少ないため、今後も災害ボランティアコーディネーター養成講座を実施し、会員の確保を目指していく。

施策3 福祉の担い手の確保・活動の充実

(1) 各種ボランティア講座やサロン協力員講習会の開催を継続し、リーダーの育成を進めた。

① サロン協力員の育成・充実

サロン協力者、民生委員児童委員、またはボランティアに興味がある方を対象に、講習会を開催し新しい取り組みの補助や、情報提供、情報交換を行った。

【6月20日】	相良総合センターい〜ら	笑って楽しく栄養補給	36名
【10月16日】	相良総合センターい〜ら	楽しくクラフト	35名
【12月11日】	健康福祉センターさざんか	笑いヨガ	35名

② ふくし体験講座の実施

夏休みを利用して、障がいがある方の暮らしを体験することで、福祉への理解や自分たちにもできる活動を考えるきっかけ作りを目的としたふくし体験講座を開催した。

【8月7日】 相良総合センターい〜ら 23名

(2) サマーショートボランティアの開催を支援し、若い世代のボランティアの関心を高めた。

① サマーショートボランティアの充実

今年で36回目となったこの事業。県ボランティア協会が主催となって、市内の27福祉施設で、中・高校生等が連続4日以上ボランティア活動を行った。

【活動期間】8月1日～8月30日

(3) 活動支援者として、元気な高齢者の活用を図った。

① ボランティア活動への参加

相良・榛原両地区のひとりぐらし高齢者を対象にふれあい食事会を開催した。相良地区では、生きがいリーダー、あい♥クック、榛原地区では、生きがいリーダー、オムレツくらぶがレクリエーション等の出し物やお弁当を作っていただき、地域での活動の場を提供した。

【8月24日】総合健康福祉センターさざんか 59名

【9月12日】相良総合センターい〜ら 20名

☆評価

学生に福祉を知ってもらう機会を、夏休みに開催できたことはとてもよかった。夏休みふくし体験では、相良高校福祉家庭部の皆さんにボランティアとしてご協力いただき、点字ラリーや白杖体験等を行った。他者の気持ちを分かってもらえる良い機会となった。

また、サマーショートボランティアは、県ボランティア協会が主体となって実施したが、問題もなくスムーズに行うことができた。

☆課題

要支援の方が地域で安心して暮らすことができるためには、介護保険法の改正もあり、今以上の福祉の担い手づくりが必要となる。地域に必要なニーズ調査と社協だけでなく、市との協働が必要だと感じた。

施策4 各種福祉サービスの利用支援

(1) 利用者の状況に応じて既存事業の見直し。

介護保険事業所(P31～51)

(2) 積極的に広報を行い、事業や制度の周知を図った。

① 社協広報紙「ふくしだより」の発行(6回)

福祉意識の啓発と社協の活動を市民に理解してもらうため、A4版4面の「ふくしだより」を奇数月15日(土日祝日は前となる)に、自治会を通じて発行した。

【年間発行部数】月14,100部(計84,600部)

② ホームページの充実

社協事業の報告やイベント情報をホームページやフェイスブックに記載し、一般市民へ提供した。また、ホームページについては、多くの人に見てもらえるようお知らせを随時掲載するようにした。

【アドレス】<http://www.makinohara-shakyo.jp> 【Face book】牧之原市 社会福祉協議会

③ ボランティア情報紙の発行

市民ボランティアに対する意識向上、今後の総合事業における生活支援サービスボランティアを知ってもらうきっかけづくりとして、新聞折込によるボランティア情報紙を発行した。

④ あるたすニュースの発行

有償のふくしサービスとしてスタートした“あるたす”の周知と、らいふサポーター及びらいふサポーター養成講座の啓発を目的に発行し、全戸配布した。

⑤ らいふサポーター養成講座チラシの発行

らいふサポーター養成講座の受講者募集と、支え合い活動の必要性を啓発することを目的とし、らいふサポーター養成講座チラシを発行し、全戸配布した。

(3) 関係機関との連携を強化し、サービスの質の向上に取り組んだ。

地域包括支援センターさがら及び生活支援センターつばさ(P52～57)

(4) 介護者家族のリフレッシュを目的とした、介護者の集いを継続して実施。

地域包括支援センターさがら(P52～54)

(5) 介護予防及び生きがいづくりを目的とした、介護予防通所事業を継続して実施。

生きがいデイあしたか(P58～64)

☆評価

ホームページも3ヶ月に1回を目安に、バックの色を変更して、飽きないような工夫をしている。広報紙については、2ヶ月に1回奇数月に発行することとなったため、わかり易く、見やすい情報誌になるよう心がけている。

☆課題

報告紙ではなく、情報紙になるようにアウトリーチし情報を集めるようにしたい。また、ホームページについては写真の更新など、見た目を変えるなどして何度見ても飽きないようにしたい。

施策5 情報提供の充実

(1) ふくしだよりの内容の充実を図った。

再掲(I-4-(2)-①) (P6)

(2) ホームページを活用し、新しい情報を発信。

再掲(I-4-(2)-②) (P6)

(3) ボランティア情報紙等を発行。

再掲(I-4-(2)-③④⑤) (P6)

施策6 生活環境の整備の充実

(1) 日常介護用具総合貸与事業、施設入浴サービス事業、移動支援事業、福祉車両貸出事業を継続、実施。

① 日常介護用具総合貸与事業

介護保険が適用されない方で、日常生活上介護ベッドやエアマットが必要な方に3ヶ月以内で貸出を行う事業。

【貸出実績 1件】

ケース詳細:34歳女性。骨肉腫から全身に転移しており、医師からは「いつ亡くなってもおかしくない」と言われている状況。低栄養による褥瘡もあり、エアマットなしには自宅に戻ることができない中で「できる限り家族で過ごす」ことを目的に貸し出しを行った。

② 施設入浴サービス事業

再掲(I-4-(1)-相良ホームヘルプサービス・榛原ホームヘルプサービス) (P38・P43)

③ 移動支援事業

再掲(I-4-(1)-相良ホームヘルプサービス・榛原ホームヘルプサービス) (P38・P43)

④ 福祉車両貸出事業

〔相良事務所〕

マイクロバス(27人乗り)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
回数	11	13	7	12	6	6	
延べ人数	209	254	142	261	107	93	
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
回数	19	19	8	7	10	11	129
延べ人数	382	393	169	145	201	242	2,598

ワゴンR(福祉車両:スロープ車・3人乗り)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
実人数	8	7	7	11	6	12	
延べ人数	9	14	8	17	13	18	
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人数	11	11	10	7	10	12	112
延べ人数	20	15	16	15	12	15	172

デミオ(福祉車輛:スロープ車・3人または4人乗り)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
実人数	4	7	7	8	5	7	
延べ人数	15	22	20	19	22	23	
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人数	0	1	0	3	0	0	42
延べ人数	0	1	0	8	0	0	130

エブリー(福祉車輛:スロープ車・3人または4人乗り)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
実人数							
延べ人数							
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人数	10	9	7	8	9	13	56
延べ人数	28	23	26	23	21	19	140

〔榛原事務所〕

ハイエース(福祉車輛:10人乗り)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
実人数	1	2	0	2	3	0	
延べ人数	1	4	0	4	3	0	
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人数	0	2	0	0	0	0	10
延べ人数	0	2	0	0	0	0	14

ファンカーゴ(福祉車輛:5人乗り)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
実人数	8	3	6	4	7	6	
延べ人数	14	5	16	8	11	14	
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人数	5	9	6	6	6	7	73
延べ人数	13	16	17	12	20	20	166

AZワゴン(福祉車輛:スロープ車・3人または4人乗り)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
実人数	10	9	7	10	5	7	
延べ人数	13	11	9	11	6	7	
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人数	9	12	8	13	5	14	109
延べ人数	10	16	10	22	6	16	137

(2) 心身障がい児(者)施設への通所者に通園費補助事業を継続、実施。

①心身障がい児(者)通園費補助事業

牧之原市内に居住し、心身障がい児(者)施設へ通う在宅心身障がい児(者)へ、1ヵ月1,000円の施設通園(所)費補助を行った。

【前期】134名(724,000円) 【後期】133名(709,000円)

(3) ふれあい食事を実施し、ひとり暮らし高齢者にふれあいの場を提供。

①ひとり暮らし高齢者ふれあい食事会

相良地区(1回)

70歳以上のひとり暮らし高齢者を対象に、ボランティアグループ“あい♥クック”の協力により、会食方式の食事会を実施し、参加者同士やボランティアとの交流により楽しい時間を過ごした。

【9月12日】相良総合センターい〜ら 20名

内容:生きがいリーダーによるレクリエーションやシニアリトミックで参加者同士の交流を深めた。

榛原地区(1回)

70歳以上のひとり暮らし高齢者を対象に、ボランティアグループ“オムレツくらぶ”や高校生ボランティアの協力により、会食方式の食事会を実施し、参加者同士やボランティアとの交流により楽しい時間を過ごした。

【8月24日】総合健康福祉センターさざんか 59名

内容:生きがいリーダーによるレクリエーションやシニアリトミックで参加者同士の交流を深めた。

②ひとり暮らし高齢者給食サービス

相良地区(19回)

70歳以上の見守り等の支援が必要と思われる、ひとり暮らし高齢者及び高齢者世帯37名を対象に、200円の利用料で月2回ボランティア連絡会の調理部会が作ったお弁当を、民生委員児童委員が高齢者宅へ配食した。8・9月は、食中毒の恐れがあるため弁当は休止したが、9月20日(水)に民生委員の協力を得て見守り訪問を実施した。

【配付した弁当の延べ食数】635食

【見守り訪問】37名

榛原地区(19回)

70歳以上の見守り等の支援が必要と思われる、ひとり暮らし高齢者及び高齢者世帯14名を対象に、200円の利用料で月2回ボランティアグループ“オムレツくらぶ”が作ったお弁当を配達ボランティアが高齢者宅へ配食した。8・9月は、食中毒の恐れがあるため弁当は休止したが、9月6日(水)に配達ボランティアの協力を得て見守り訪問を実施した。

【配付した弁当の延べ食数】233食

【見守り訪問】14名

☆評価

福祉車輛については、毎月新規登録希望者が3~5件あり引き続きニーズがあると考えられる。デミオの不具合について運転ボランティア等から利用を躊躇される声が聞かれていた中、貸出要綱の見直しを行いデミオを廃止、エブリワゴンを貸し出しできる体制作りを行った。また、ふれあい食事会は参加者同士や地域の方々との交流ができた。給食サービスは安否見守りができることと、担当民生委員さんとの連携が取れ情報交換ができる。

また、今後給食サービス利用者の現状や緊急連絡先の把握を行うとともに、地域に根ざしたサービスのあり方を他機関とともに検討していく。

☆課題

福祉車輛については、デミオの課題は解消されたが、利用者が増えている中で、貸し出しできる福祉車輛は5台のみである。今後も、福祉車輛に対するニーズは増え続けていく予測がある中で、利用希望者の時間帯が重なるなどの問題が出てくると思われる。また、ストレッチャー対応の福祉車輛は無いのか?といった問合せが入った事もあり、車イス利用者や障がい者の交通手段、またそれを支援する運転者等の確保について市全体で考えていかなければならない課題であると感じる。加えて、運転登録者が高齢化するなどの問題に備えて、車両事故のルールを整えておきたい。

給食サービス、ふれあい食事会を希望され参加される方は良いが、出てこられない、給食サービスの存在を知らないなどの方を、どのように巻き込んでいくかが課題である。また、給食サービス利用者の現状を把握し、サービスのあり方を検討する。

施策7 次世代への支援の充実

(1) 行政と連携し、子育てに関する相談体制の充実を図る。

(2) 地域で子育て支援が行える体制の整備の取り組み。

① 児童館まつりに参加

相良児童館、榛原児童館を会場に、子ども達のふれあいや地域との交流を目的に開催された児童館まつりに、社協は模擬店(ポップコーン販売)に参加した。中高生ボランティアにもご協力いただき、模擬店以外にも収集ボランティアのチラシを配布しボランティア活動のPRをした。

【8月5日】相良児童館まつり 職員1名 ボランティア4名参加

【8月5日】榛原児童館まつり 職員1名 ボランティア4名参加

② 補助金の交付

子ども会連絡協議会の単位子ども会活動費に、共同募金より補助金として交付した。

【補助金額】150,000円

(3) のびのび子育て井戸端会議を継続、実施。

① のびのび子育て井戸端会議の活動

子育て中の母親達の交流の場として、また、子どもに安心して楽しく遊べる場を提供するなど、子育てを支援するために、主任児童委員やボランティアの協力をいただき開催した。

【参加者】103組の親子(延べ222名/大人103名・子ども119名)、夏休み中高生ボランティア

☆評価

のびのび子育ては、参加者同士で交流し情報交換し子育てを楽しむ場所となっている。また、お母さんボランティアが主体となって活動をするよう実施している。そして、民生委員児童委員が気軽に声をかけることで育児ストレスの軽減が図れている。しかし、子育て支援センターやサークル等親の出かけられる場所が充実してきたため、廃止とする。また、児童館まつり学生ボランティアについて、今年度から児童館より榛原高校、相良高校にボランティアを募集していた。例年通り社協独自でも学生ボランティア募集をしていたため、学校側が混乱してしまった。次年度からは学生ボランティア募集を社協独自に行うのではなく、児童館より学校へ発信してもらおう。

☆課題

子育て世帯も住みやすい地域づくりに向けてのニーズ把握を行っていく。

基本目標Ⅱ 活動の輪を広げるまちづくり

施策1 地域や学校における福祉教育の推進

(1) 福祉教育学校連絡会を開催し、福祉教育の推進と充実を図った。

【6月19日】市内小・中・高等学校へむけて、社協が協力できる福祉教育の内容紹介や車いす等の備品の紹介をした。また、各学校での福祉・ボランティア活動等の取り組みを発表してもらい、共有した。

(2) 学校や関係機関と連携し、福祉体験学習の充実を図った。

① 福祉体験学習への支援

市内小・中・高等学校からの依頼で、講話・車椅子・アイマスク体験等を実施し、福祉に対する理解が深まるようサポートした。

【5月18日・9月13日】萩間小学校4年生 17名

【6月12日・6月23日・9月28日・11月6日】細江小学校4年生 82名

【6月27日・11月21日】地頭方小学校4年生 42名

【7月10日】勝間田小学校6年生 24名

【7月13日】坂部小学校6年生 16名

【7月18日・9月7日】牧之原小学校4年生 32名

【10月27日・2月2日】川崎小学校5年生 75名

【11月8日・11月9日・11月16日】相良中学校3年生 144名

【11月1日・11月15日・11月29日】相良高校3年生 178名

(3) 障がい者(児)への正しい理解を推進。

自立支援ネットワーク等の会議へ出席し、理解の推進を図った。

(4) 福祉教育ハンドブックの改定の計画。

各関係機関の担当職員間において、ハンドブック検討会を開催し、改定に向け、話し合いを重ねた。

(5) 福祉体験講座を実施。

① ふくし体験講座の実施

再掲(I-3-(1)-②)(P5)

☆評価

体験講座では、点字ラリーを行い、各ポイントをまわる際に白杖・車イス・高齢者体験をした。体験を通して、生活の不自由さや自分たちが日頃からできること等参加した児童から感想が聞かれた。

☆課題

福祉教育について、全小中高校からの依頼があるようにしたい。ふくし体験講座は、毎年参加してくれている児童もいるため、バリエーションが必要である。

施策2 ボランティア・地域活動等の参加促進

(1) アンケートや懇談会を開催し、地域のボランティアニーズを把握します。

福祉総合相談や地域に出向いていく中で、地域に必要なニーズの把握を行っている。また、サロンなどにおいても協力員にアンケートを行うことで、ニーズを把握した。

(2) ホームページや広報紙を活用して、ボランティア情報を発信。

① 広報活動

再掲(I-4-(2)-①②③④⑤)(P6)

② ボランティア連絡会

個人登録制と団体登録制の2種類がある。事業としてもふれあい運動会や視察などを実施している。また、市内福祉施設の夏祭り等の当日ボランティアとしても参加し、交流を図っている。

個人登録 登録実人員 5名

団体登録 24団体 会員数延べ 775名

No.	グループ名	人数	主な活動場所	活 動 内 容
1	オムレツくらぶ	23	さざんか	給食サービス事業の調理ボランティア
2	音訳サークルやまびこ	3	さざんか	目の不自由な方へ、市の広報誌をテープへ吹き込む
3	手話サークル“フレンド”	8	さざんか	手話を覚える、ろうあ者との交流
4	運転ボランティア「どこでもカー」	13	市内	障がい者の外出支援
5	生きがいリーダー連絡協議会	60	市内	介護予防を展開する中で、地域のよりよい健康、生きがい、地域づくりの推進を図る
6	牧之原市まちづくり実行隊	19	市内	おやじの会による親子ふれあい活動、勝間田川流域の環境保全活動、障がい者福祉活動サポートの実施
7	茶っこクラブ	12	市内	健康づくり活動、花の会活動、手芸活動

No.	グループ名	人数	主な活動場所	活 動 内 容
8	うぐいす	6	市内	老健施設でのハーモニカ演奏
9	すまいる	6	市内	レクリエーション他
10	一丁目龍友会	61	市内	龍眼山等の清掃活動
11	花の会	207	市内	市内の花壇への植栽、手入れ 花やみどりの講座の開催
12	ハートプラス・プロジェクト	4	市内	一般市民への救命手当・応急手当普及活動
13	おはなしクラブ	15	市内	市内小学校での読み聞かせ、朗読劇等の 企画上演、おはなし会等の開催、児童ク ラブ催し物等への協力
14	牧之原せいそわの会	6	市内	福島原発事故によって県内へ避難移住して いる方への支援、福島県周辺から市内(県 内)へ保養(放射線からの保養に限る)来る 方への支援
15	作業ボランティア部	9	こづつみ作業所	陶器の転写紙貼り、下請け部品組立作業手 伝い・各行事への協力
			第2こづつみ作 業所	下請け部品組立作業手伝い・各行事への協 力
16	介助部	4	つくしの家・つく しホーム	パターニングの手伝い・各行事への協力、 圏外療育(主に散歩)の手伝い・各行事への 協力
17	浜岡原発を考える牧 之原市民の会	10	市内	原子力災害が発生した場合の避難方法等 を学び、一般に向けて学習会を行う。
18	牧之原市消費者協会	24	市内	啓発事業
19	牧之原市災害ボラン ティアコーディネー ター	16	市内	災害ボランティアセンター立ち上げ訓練、市 民への災害時ボランティアの必要性のPR活 動等
20	東5丁目松林を守る会	13	市内	海岸松林の手入れ等
21	mori to umi	8	市内	森づくりの活動(皮むき間伐等)
22	まきのはらし図書館友 の会	15	市内	牧之原市図書館のPRと活動を支える、図書 館の設備と機能を充実するための活動
23	サークル「てんとう虫」	4	市内	ギターやアコーディオン等に合わせ歌う会 の開催、尺八演奏をきく会等芸能を楽しむ活 動等
24	カメハメハ王国	230	市内	アカウミガメの上陸・産卵等の調査、2泊3日 相良自然環境塾等

(3)活動者や地域との連携を強化するなど、ボランティアコーディネート体制の充実。

ボランティア連絡会の会議に参加するなどし、情報収集や事業連携などを行った。
また、ボランティア活動を活発化させるため、社協にボランティアコーディネーターを配置し、ボ
ランティア連絡会を中心とした活動の活発化を図った。

①エコキャップ運動の推進

ペットボトルキャップのリサイクル活動に参加することによって、環境や貧困など、世界が直面する様々な課題について、学び、考え、行動する機会を提供した。

【回収総重量】 2,144kg (27団体)

【回収個数】 921,920個

【ワクチン】 1152.5名分

(4)地域で必要とされているボランティアの養成講座を実施。

地域福祉の担い手に、個人の得意分野を生かす場所を提供した。

【4月7日】社協マスコットキャラクター「マッキーちゃん」お手玉ぬいぐるみづくり 12名

【8月30日】ふれあい広場景品社協マスコットキャラクター「マッキーちゃん」巾着袋 8名

(5)ふれあい運動会を実施し、ボランティア活動への参加の機会を提供し、ボランティアの交流。

①ふれあい運動会の充実

毎年、地区を変え小学校を会場に年代、障がいの有無に関わりなく交流し、お互いに何かを感じ取ってもらおうと、ボランティア連絡会が主催し行った。

【6月17日】相良小学校体育館 74名 1福祉施設、牧之原市身体障害者福祉会

☆評価

ふれあい運動会では、児童以外にも保護者の参加も見られ、親子で障害を理解する機会となった。今後もボラ連と一緒に運営していきたい。

エコキャップについては、かなり市民に浸透している。学校等教育の場だけでなく、個人や企業でも収集し、持参してくれる。また、NPO法人こころ(さがら作業所)が社会貢献の一環で運搬等の支援があり、助かっている。

☆課題

ふれあい運動会は今年で12回目となり、内容の見直し等検討が必要。また、他行事と重なってしまい、福祉施設の参加が少なかった。今後も開催をするのならば、福祉施設とも連携を取る必要を感じた。エコキャップなど収集の情報は広まったが、シールをはがすなどのルールが守られていないところもあるため、情報提供を徹底していきたい。また、エコキャップ回収業者に、持ち込みをしなければならず、時間がかかることと、職員が2名で対応しなければならない。

施策3 地域資源の確保・活動推進

(1)地区社会福祉協議会の運営支援、未設置地区への設立。

6地区社協の事業(楽らくクラブ等)への運営支援を行っている。また、未設置の相良地区については、法人内で設置に向け検討を続けている。

(2)地区活動の支援として補助金を交付。

25区に活動費として約180万円、市民からいただいた会費の中から補助金を交付している。

(3)ふれあい・いきいきサロン事業の推進、支援を行った。

①ふれあい・いきいきサロン事業の充実(44サロン)

各区でのふれあい・いきいきサロン事業の充実及び支援を図った。それによって、地域住民と高齢者等との交流が活発になった。

区分	相良区	福岡区	地頭方区	波津区第2ブロック	新庄区
名称	生き生きクラブ	生き生きクラブ	はつらつクラブ	ほのぼの会	憩いクラブ
開設年月	平成9年6月	平成9年6月	平成10年6月4日	平成11年7月4日	平成11年9月8日
開催日	毎月1回 第1月曜日	毎月1回 第3月曜日	毎月2回 第1・3木曜日	毎月1回 第1日曜日	毎月1回 概ね15日
開催時間	13:00～15:00	13:00～15:00	13:30～15:30	9:30～11:30	13:30～15:00
場所	相良区コミュニティ 防災センター	相良区コミュニティ 防災センター	地頭方区公民館	波津区公会堂、波津コ ミュニティーセンター	トーク地頭方
対象者	相良区・福岡区 及び近隣地区の 概ね70歳以上の 方	相良区・福岡区 及び近隣地区の 概ね70歳以上の 方	区内に在住する 概ね80歳以上の 方	75歳以上又は若 くて引きこもりの 方	区の65歳以上の 高齢者
延参加者	314人	286人	336人	363人	598人
延協力員	145人	143人	165人	73人	21人
代表	西尾 仁男	北川 幸克	本目 美知子	松下 かづ代	永井 和子

区分	波津区第1ブロック	大沢区	白井区	須々木区	片浜区
名称	にこにこ会	もんじゅの会	いきいきサロン	お元気クラブ	ふれあいクラブ
開設年月	平成11年9月19日	平成11年10月8日	平成11年12月16日	平成12年4月7日	平成12年8月22日
開催日	毎月1回 第3金曜日	毎月1回 第3金曜日	毎月1回 第3木曜日	毎月1回	毎月1回 15日
開催時間	13:30～15:00	13:30～15:30	13:30～15:30	13:30～15:00	9:00～11:30
場所	静和会館	大沢公民館	白井公民館	須々木区区民館	片浜防災セン ター
対象者	概ね70歳以上の 方	概ね65歳以上の 方	60歳以上の方	区の70歳以上の 方	区の高齢者
延参加者	97人	151人	268人	242人	200人
延協力員	44人	114人	61人	154人	89人
代表	松下 全代	牧野 祐子	中田 二三男	西川 宣男	森下 吉治

区分	波津区第3ブロック	西萩間区	大江区	菅山区	牧之原区
名称	ほほえみ会	子生まれクラブ	大海老会	油会クラブ	茶の実クラブ
開設年月	平成12年8月30日	平成12年9月15日	平成13年3月	平成13年3月	平成14年2月26日
開催日	毎月1回 30日	毎月1回 第3水曜日	毎月1回 第1木曜日	毎月1回 20日前後	毎月1回 第3火曜日
開催時間	9:00～11:30	13:00～16:00	13:30～15:30	13:30～15:30	13:30～15:30
場所	波津区公会堂	西萩間公民館	大江区民会館	菅山区公民館	牧之原区民センター
対象者	概ね65歳以上の 方	概ね75歳以上の 方	概ね70歳以上の 方	区の高齢者	65歳以上の方
延参加者	73人	179人	328人	290人	287人
延協力員	84人	47人	62人	136人	127人
代表	羽田 智行	齊藤 義雄	矢部 雅弘	森田 定	水嶋 眞志

区分	遠渡区	豊岡区	落居区	東萩間区(上)	東萩間区(下)
名称	サンサンクラブ	いきいきサロン豊岡	落ち合いサロン	笑和クラブ	いきいき東
開設年月	平成14年5月26日	平成14年5月29日	平成14年9月30日	平成14年10月11日	平成14年10月11日
開催日	毎月1回 10日	毎月1回 15日	毎月1回	毎月1回 第2水曜日	毎月1回 23日
開催時間	13:30～15:00	13:30～15:00	13:30～15:30	9:00～11:30	9:00～11:30
場所	遠渡公民館	豊岡公民館	落居公民館	東萩間上公民館	東萩間下公民館
対象者	区の高齢者	概ね65歳以上の方	概ね65歳以上の方	概ね70歳以上の方	概ね75歳以上の方
延参加者	224人	238人	419人	124人	182人
延協力員	90人	48人	53人	34人	30人
代表	松下 律子	小川 弘廣	曾根 宏	小笠原 博	鈴木 進

区分	中里区	神寄区(大寄)	神寄区(女神)	波津区第4ブロック	勝間田区
名称	にっこりサロン	大の字クラブ	すこやかクラブ	ハッピークラブ	ほがらかサロン
開設年月	平成15年1月	平成15年1月	平成15年1月	平成15年7月1日	平成11年5月
開催日	毎月1回 第2金曜日	毎月2回 第2・4水曜日	①第2金曜日 ②第4日曜日	毎月1回 第1火曜日	毎月4回 毎週木曜日
開催時間	13:30～15:00	13:30～15:00	①13:30～15:30 ②10:00～11:30	10:00～12:00	9:00～11:00
場所	萩間公民館	大寄公民館	女神公民館	大原公民館	勝間田会館
対象者	概ね65歳以上の方	概ね60歳以上の方	概ね65歳以上の方	65歳以上の方	65歳以上で健康な方
延参加者	163人	398人	395人	170人	1,997人
延協力員	77人	123人	47人	36人	217人
代表	長谷川 明広	横山 夏日子	芳村 尚人	栗山 清	大関 小佳枝

区分	静波区	川崎区	坂部区	細江区	勝間田区
名称	すこやかサロン	仁田スマレ会	坂部ふれあいサロン	はつらつサロン東福	サロンマカミ
開設年月	平成13年5月	平成13年11月	平成14年4月	平成14年6月	平成14年9月
開催日	毎月2回 第1・3火曜日	毎月1～2回 第2日曜日	毎月3回 第1・2・3金曜日	毎月1回 第2火曜日	毎月10日・20日 第1土曜日
開催時間	9:30～11:30	9:00～13:00	9:00～11:30	9:30～11:30	9:00～12:00
場所	老人福祉センター	仁田公民館	坂部区民センター	東福田公会堂	間上老人憩いの家
対象者	65歳以上の方	65歳以上の高齢者	65歳以上の元気な方	町内会高齢者	80歳以上の方
延参加者	334人	130人	1,385人	106人	179人
延協力員	82人	63人	361人	61人	18人
代表	大石 雅子	永田 政子	吉添 悦子	大井 照恵	鈴木 常夫

区分	川崎区	細江区	静波区	細江区	静波区
名称	橋向さくら会	時ヶ谷サロン	サロンのぞみ	東慶林ふれあいサロン	ふれあいサロン3丁目
開設年月	平成15年10月	平成19年12月	平成20年2月	平成20年7月	平成20年4月
開催日	毎月1回 第4水曜日	毎月1回 第3木曜日	毎月2回 第2・4水曜日	毎月1回 第1木曜日	毎月1回 第4水曜日
開催時間	13:00～15:30	9:30～11:30	13:30～15:30	10:00～11:30	10:00～12:00
場所	橋向公民館	時ヶ谷公民館	静波コミュニティ防 災センター	東慶林コミュニ ティセンター	3丁目公会堂
対象者	65歳以上の一人暮らし 世帯(障がい者)と70歳 以上の高齢者	時ヶ谷町内70歳 以上の居住者	65歳以上の方	町内会の65歳以 上の方	町内会の65歳以 上の方
延参加者	390人	276人	186人	330人	189人
延協力員	—	64人	62人	65人	26人
代表	河守 廣征	原川 正志	増田 恵美子	八木 明美	八木 末子

区分	細江区	川崎区	牧之原区	静波区	静波区
名称	堀の内草の実サロン	サロンひまわり	まきのはらいきい き教室	凜・百花春サロン	はつらつ会
開設年月	平成21年2月	平成23年8月	平成8年6月	平成26年4月	平成18年4月
開催日	毎月2回 第3火曜日	毎月1回 第3水曜日	毎月4回 第1～4火曜日	毎月1回 第2木曜日	毎月2回 第1, 3金曜日
開催時間	13:30～15:30	13:30～15:30	9:00～12:00	10:00～11:45	9:30～11:30
場所	堀之内研修センター	仁田公民館	牧之原区コミュニ ティセンター	11丁目公民館・ 中川自宅	さざんか1階ホー ル
対象者	町内会の高齢者	仁田在住の65歳 以上の方	区内65歳以上の 方	静波区の幼児からお 年寄りまでの世代	区内65歳以上の 方
延参加者	360人	190人	523人	123人	617人
延協力員	87人	15人	49人	38人	136人
代表	伊藤 睦子	羽生 正子	大崎 信博	中川 松枝	水野 多津江

区分	坂部区	地頭方区	静波区	豊岡区
名称	坂2井戸端亭	ビタミンスクール	はづき会	和つ笠会
開設年月	平成26年9月	平成27年4月	平成28年4月	平成29年4月
開催日	毎月1回 10日	毎月4回 金曜日	毎月1回 毎月10日	毎月1回 第4木曜日
開催時間	13:30～15:00	9:00～11:30	9:00～11:30	13:30～15:30
場所	岩昌寺	トーク地頭方	4丁目公民館	笠名公民館
対象者	町内会の高齢者	区内高齢者	65歳以上の住民	65歳以上の住民
延参加者	207人	1,417人	245人	149人
延協力員	190人	—	92人	66人
代表	大石 鉄男	山下 公夫	本杉 郁代	大石 禮子

サロン数 44サロン 延べ参加者数 15,658名 延べ協力員数 3,695名

②サロン事業連絡会の開催

牧之原市内のサロン事業の推進を目的にサロン事業連絡会を開催し、各地域のサロン代表者間の交流を行い意見交換を行った。

【4月4日】相良総合センターい〜ら 46名

③サロン作品展の開催

参加者の生きがいづくりの発表の場、サロン活動の周知を目的に、2月14日～2月21日にサロン作品展を開催し、18団体の参加があった。

(4)細江地区高齢者の出掛ける場づくり支援者交流会

細江地区の“サロン”や“高齢者の集いの場”を实践されている支援者による情報交換や、支援者同士が繋がることによる今後の相互支援、負担軽減に繋げられることを目的に交流会を開催した。

【9月28日】細江コミュニティセンター 10名

(5)市民の誰もが参加できる、多様なサロン事業の検討。

サロンは高齢者の集まりではなく、誰もが参加できる形を目指し子どもから高齢者までいる複合型や、子育て中のお母さんを中心としたサロンなど、多様なサロンづくりの推進を行った。地域の子どもから高齢者までが一緒にいることが当たり前のサロンになっていけたらと考えている。

①新規参加者及び団体への対応

集まる場所についての問い合わせや、開催についての問い合わせがあった際には、立ち上がりまでの支援など必要に応じて実施している。

☆評価

サロン活動は1ヶ所が新規登録をした。登録はしていなくても、自主的に地域で活動されているグループも継続できており、定期的に支援していくことが必要であると考え。また、実施回数を1ヶ月に1回から2回に増加させたサロンもあり、“高齢者の出掛ける機会の増加”の必要性への理解が深まりつつある。

☆課題

協力員の不足や高齢化、新規参加者が増えないことが課題となっている。また、2回のうち1回は場所の提供のみで“居場所型”として実施した場合の、補助金への反映をどう考えていくか、今後検討が必要。

基本目標Ⅲ 助け合い・支え合いの仕組みづくり

施策1 市民参加型の小地域福祉活動の推進・支援

(1)地区社会福祉協議会活動を支援し、未設置地区への設立。

再掲(Ⅱ-3-(1))(P13)

(2)地区代表者連絡会を開催し、ネットワークづくりや情報交換等、地域活動の支援を実施した。

①地区代表者連絡会の開催(予定)

地域のサロンへ参加し、区の代表者の方などに直接話をする事で、連絡会の代わりとした。

(Ⅲ-3-(4)-②)(P21)

(3)ふれあい運動会を継続、実施。

再掲(Ⅱ-2-(5)-①)(P13)

(4)福祉施設交流会を継続、実施。

①福祉施設交流会の充実(6施設)

市内6施設の通所者を中心にパン食い競争や3B体操など、施設の枠を超え交流会を実施した。

【9月11日】相良総合センターい〜ら 148名

(5) 世代間の交流、障がい者(児)との交流。

再掲(Ⅱ-2-(5)-①)(P13)

(6) 市内すべての市民がふれあえる、ふれあい広場の開催を継続。

① さざんかふれあい広場の開催

牧之原市の保健と福祉の拠点を活かし、子どもや高齢者、障がい者等、住民の誰もが参加し、ふれあいを楽しむことができることを目的に開催した。

【10月1日】総合健康福祉センターさざんか

(7) 功労表彰、多額寄付による感謝状の贈呈などを社会福祉大会にて行った。

① 社会福祉大会の開催【隔年】

「ふれあいを大切にしたい生涯安心して暮らすことのできるまちづくり」の実現に向けて決意を新たにするとともに、併せて多年にわたり社会福祉の発展等に功績のあった個人・団体に表彰状、多額寄付者に感謝状の授与を行った。また、就労継続支援事業所(B型)の物品販売及びいきいきサロン活動紹介をパネル掲示で行った。

【2月17日】相良総合センターい〜ら 参加者300人

表彰 被表彰者 41人 3団体 感謝状 1人 5団体

記念講演 「我が事・丸ごと」の地域共生社会の地域づくりに向けて
講師 野澤和弘 氏

☆評価

福祉施設交流会は、例年同様市内9施設に声をかけている状況にあるが、毎年参加しない施設、行事が重複し参加できない施設、別の行事前であったため保護者の負担を考慮し参加を見送った施設の計3施設が不参加の状況。交流会自体には体操やパン食い競争、班ごとによるゲームを行い、参加者からは楽しまれた様子が聞かれている。また、平成30年度のさざんかふれあい広場は、さざんかが改修工事のため中止とする。

社会福祉大会は、就労継続支援事業所の物品販売も新たに加わり多くの方に参加してもらうことができた。また、参加していただいた方からご講演していただいた内容についても高評価をいただくことができた。

☆課題

福祉施設交流会の本来の目的は活動の場が制限されていた施設利用者の為に企画された事業であるが、施設ごとの取組みや行事は年々増えている状況にあり、実施日を調整することが困難になってきている。ただし、事業存続を求める声は根強い中で、利用者を取り巻く状況の変化から事業の変化を求める声も聞かれる。これまでの事業の取組みや障害福祉の現状の振り返りを行う中で、事業の在り方や目的を再度明確にしていくことが必要となる。今後は、社協内の障害分野の相談機関と連携した上で、開催していくことを視野に入れていきたい。

また、さざんかふれあい広場は、さざんかふれあい広場検討委員会で検討を行い、平成31年度以降の開催について検討していく。

社会福祉大会については、2年に1度の開催であることから表彰者が多くなっている。また、多くの方に参加していただけるよう検討する必要がある。

施策2 生活困窮世帯等への支援ネットワーク体制の強化

(1)生活困窮者自立支援事業を実施。生活困窮状態に陥っている方の自立へ向けた相談窓口として支援を行った。

①相談受付状況

相談件数		相談対応詳細	
相談受付件数	125件	電話連絡	332件
事業申込件数	34件	訪問、同行支援	408件
プラン策定数(再プラン含)	44件	面談	254件
家計再生プラン策定数	10件	生活保護受給者等就労自立促進事業利用	5件
終 結	34件	フードバンク利用回数	33回

※終結・・・就労でき収入が増加したことで生活の安定(23件)

生活の基盤を整えたうえでの転居(7件)

親族の支援が得られ生活の安定が図れた(1件) 本人の死亡(1件)

生活保護の受給(2件)

②支援調整会議

相談者に対しての支援内容となるプランについて、行政及び関係機関と協議、決定する場として毎月第2、4火曜日に実施した。また、定期的に実施することにより、再プランや終結の判断等、進捗管理の役割も果たしたことに加え、終結後の関係機関による役割分担等の機能も担っている。

支援調整会議 年間に23回実施

(2)生活困窮世帯に対し、自立するために必要な資金を無利息で貸付する福祉資金貸付事業の相談を行った。

①市福祉資金貸付事業

種 類	貸付 限度額	区 分	当年度分				過年度分				欠損額	残高
			貸付額	償還額	未償還額	滞納額	未納残額	償還額	未償還額	滞納額		
一般 資金	10万円 以内	金額	703,454	195,000	505,454	0	700,250	5,000	0	695,250	0	1,200,704
		件数	10	11	9	0	10	1	0	10	0	19
高額療 養資金	100万円 以内	金額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
介護保 険資金	20万円 以内	金額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計		金額	703,454	195,000	505,454	0	700,250	5,000	0	695,250	0	1,200,704
		件数	10	10	9	0	10	1	0	10	0	19

(3)地域において自立した生活が送れるよう、日常生活自立支援事業、成年後見人制度の相談、支援を行った。

①日常生活自立支援事業(権利擁護事業)

判断能力が十分でない方が、できるだけ住み慣れた地域で自立して生活できるように、福祉サービスの利用援助や日常的金銭管理を実施した。

【専門員の配置】9名(兼務) 【生活支援員の配置】7名

【相談及び契約件数】

区 分	本事業の利用に関するもの				その他	合 計
	認知高齢者	知的障がい者	精神障がい者	その他		
利用回数	109	64	116	43	0	332
相談回数	62	54	59	35	0	210
新規契約締結件数	0	2	1	1	0	4
事業利用人数	3	5	5	2	0	15

☆評価

日常生活自立支援事業について成年後見制度へ繋げたケース2件、新規利用者4件、自己都合で終了したケース1件、本人死亡にて終了したケース1件となっている。社協で伴走した結果、事業に繋がるケースが増えている。

生活困窮者自立支援法の対象となる相談件数は昨年と比べてほぼ横ばいの状況にあるが、高齢者・障がい者・子育て世帯を含む重層的な課題を抱えたケースや多重債務の相談など、困難ケースが増えてきている。そのような状況下において、社協独自で重層的な課題に対応し得る新事業の創出を進めた。

☆課題

日常生活自立支援事業について、保管品受取人が不在となっているケースが複数ある。関係機関とも連携をしながら親族把握を進めていく。

貸付については長期間滞納者への償還指導を根気よく継続していく必要がある。県社協貸付については、訪問するなかで生活困窮自立支援へ繋げたケースもあった。

多問題世帯について他機関との連携が重要度を増している中で、支援調整会議を定期的で開催しているものの、参加機関が限られている状況にある。今後は生活支援係と協働して他機関との連携強化を進めていく必要がある。

施策3 地域包括ケアシステムの推進と福祉の連携と協働の強化

(1) 地域包括ケアシステムの検討。

地域包括ケアシステム推進のため、関係機関と連携や協働を強化し、今後の牧之原市の福祉の在り方や取り組みなどを検討した。

①所属長会議の開催

地域福祉課や介護保険事業所などと連携を密にとり、今後の事業展開についても包括的に行えるよう、所属長会議などを行った。

- ・所属長会議 毎月1回(会長出席)

②牧之原市社会福祉法人連絡協議会の実施

牧之原市内の社会福祉法人7法人が集い、情報交換などを実施した。今年度は、各法人が実施した地域貢献事業の紹介と、社協、賛育会、地域が協働した活動のきっかけを紹介した。

【1月22日】 社会福祉法人連絡協議会 7法人 20人(行政含む)

(2) 住民組織と連携し、地域での見守りネットワークを実施。

市が行っている「見守り隊」に参加協力し、地域での見守りを行っている。また、今後行う住民アンケートにより必要な対策を行いたいと考えている。

(3) 多問題ケースへの対応について関係機関と連携を図った。

生活困窮と介護など、多問題ケースについては包括や居宅など、関係機関とのケア会議を開催している。

(4) 生活支援サービス事業を実施。

介護保険制度の改正における生活支援サービスの充実・強化に向け、高齢者の社会参加の場や、ボランティア、NPO等による多様な生活支援サービスが利用できる地域づくりを目指し、ボランティア等生活支援の担い手の養成や地域資源の開発を行った。

①地域支え合い推進員事業打合せ

事業を実施するにあたり、現状の確認と今後の方針について共有することを目的に、行政との打ち合わせ会を行った。

・地域支え合い推進員活動事業打合せ 12回

②地域支え合い活動協議体の実施

地域の困りごとを解決していくための話し合いの場として、“地域支え合い活動協議体”を実施した。全体連絡会で出された意見を基に3つの部会にて検討を重ね、対応策についての方針をまとめ、活動に移すことができた。

【4月17日】	第1回	相良総合センターい〜ら	27名
【10月17日】	第2回	相良総合センターい〜ら	21名
【3月13日】	第3回	相良総合センターい〜ら	22名

・ちょっとした困りごとへの支え合い部会

(会議の実施)

【4月24日】	第1回	相良総合センターい〜ら	7名
【6月5日】	第2回	相良総合センターい〜ら	6名
【7月3日】	第3回	相良総合センターい〜ら	5名
【8月21日】	第4回	相良総合センターい〜ら	5名
【9月12日】	第5回	相良総合センターい〜ら	6名
【11月6日】	第6回	相良総合センターい〜ら	5名
【12月11日】	第7回	相良総合センターい〜ら	5名
【1月18日】	第8回	相良総合センターい〜ら	5名
【2月19日】	第9回	相良総合センターい〜ら	6名

(方針と実践活動)

スローガンやチラシによる『啓蒙活動』から行い、ゴミ出しの活動から始めることで“向う三軒両隣”の関係を目指す。

- 【3月上旬】 鈴木謙二委員が知り合いの業者の方に依頼、啓発用のチラシが完成。
- 【3月24日】 鈴木正樹委員が地元である波津西総会にてチラシを配布、活動への協力を呼び掛けた。

・歩いて出掛けられる集いの場部会

(会議の実施)

【5月30日】	第1回	相良総合センターい〜ら	13名
【6月19日】	第2回	相良総合センターい〜ら	9名
【7月24日】	第3回	総合健康福祉センターさざんか	10名
【8月29日】	第4回	相良総合センターい〜ら	10名
【9月26日】	第5回	総合健康福祉センターさざんか	13名
【11月21日】	第6回	相良総合センターい〜ら	11名
【12月15日】	第7回	総合健康福祉センターさざんか	12名
【1月29日】	第8回	相良総合センターい〜ら	12名
【2月20日】	第9回	総合健康福祉センターさざんか	7名

(方針と実践活動)

時間も内容も自由な『居場所』に近い出掛ける場を広げていく。

榛原地区:サロンの無い町内会へ地域の要望に沿った集いの場実施を目指す

- ・鹿島町内会、公民館にて『おしゃべり会(仮)』を 1月26日、2月16日、3月16日に実施。
- ・旧デイサービスしずなみでの居場所実施に向けて話し合いを実施。

相良地区:誰もが立ち寄れる場として商工会を活用し、毎月15日に居場所を実施していく

- ・商工会にて『ちよっくら処〜風』を 2月15日、3月15日に実施。

・外出の支援部会

(会議の実施)

【5月9日】	第1回	相良総合センターい〜ら	9名
【6月13日】	第2回	相良総合センターい〜ら	11名
【7月11日】	第3回	総合健康福祉センターさざんか	8名
【8月22日】	第4回	相良総合センターい〜ら	7名
【9月19日】	第5回	総合健康福祉センターさざんか	7名
【11月14日】	第6回	相良総合センターい〜ら	7名
【12月12日】	第7回	総合健康福祉センターさざんか	8名
【1月16日】	第8回	相良総合センターい〜ら	8名
【2月13日】	第9回	総合健康福祉センターさざんか	7名

(方針と実践活動)

社会福祉法人の協力のもと高齢者の社会参加の場へ送迎支援を行う。まずはモデル地区として開始し、他地域への実施に向け、市内法人へも協力を求めていく。

【3月26日】 大沢地区サロンもんじゅの会と社会福祉法人正廉会海山荘、社協とで打合せを実施し送迎ルートについて共有。

③らいふサポーター養成講座の実施

牧之原市内の生活支援体制の充実を図るための担い手養成として、高齢者支援を実施するうえでの基本的な知識や技術を学ぶことを目的とした“らいふサポーター養成講座”を実施した。

前期

【5月15日】	第1回(共通1回)	牧之原市の高齢者のことを知ろう!	12名
【5月22日】	第2回(共通2回)	みんなで考えよう!わたしがして欲しいこと、わたしができること	12名
【5月29日】	第3回(共通3回)	介護予防と簡単な介護	15名
【6月5日】	第4回(共通4回)	知って納得!高齢者との接し方	11名
【6月12日】	第5回(共通5回)	高齢者の対応に伴うリスク管理	13名
【6月19日】	第6回(お宅1回)	高齢者宅での高齢者支援活動について	11名
【6月26日】	第7回(グル1回)	地域の集いの場での生きがいづくり!	10名
【7月3日】	第8回(お宅2回)	訪問のコツ! みつけよう	13名
【7月10日】	第9回(グル2回)	エンジョイ!レクリエーション体験	10名
【7月18日】	第10回(お宅3回)	チャレンジ!お宅訪問!(実践)	11名
【7月24日】	第11回(グル3回)	チャレンジ!みんなでやってみよう!(実践)	9名
【7月31日】	第12回(共通6回)	今後の活動について	11名

後期

【11月7日】	第1回(共通1回)	牧之原市の高齢者のことを知ろう!	11名
【11月14日】	第2回(共通2回)	みんなで考えよう!わたしがして欲しいこと、わたしができること	9名
【11月21日】	第3回(共通3回)	介護予防と簡単な介護	8名
【11月27日】	第4回(共通4回)	知って納得!高齢者との接し方	10名
【12月5日】	第5回(共通5回)	高齢者の対応に伴うリスク管理	10名
【12月12日】	第6回(お宅1回)	高齢者宅での高齢者支援活動について	6名
【12月19日】	第7回(グル1回)	地域の集いの場での生きがいづくり!	11名
【1月9日】	第8回(お宅2回)	訪問のコツ! みつけよう	5名
【1月16日】	第9回(グル2回)	エンジョイ!レクリエーション体験	11名
【1月23日】	第10回(お宅3回)	チャレンジ!お宅訪問!(実践)	7名
【1月30日】	第11回(グル3回)	チャレンジ!みんなでやってみよう!(実践)	10名
【2月7日】	第12回(共通6回)	今後の活動について	11名

講座内容	H29		H28	
	受講者	修了者	受講者	修了者
グループサポーター	22	14	4	4
お宅サポーター	17	17	3	3

※H29受講者は両講座併せて実人数24名、H28受講者は欠席された項目のみの受講

④サポーターフォロー事業

らいふサポーター養成講座のグループサポーター課程の修了者を対象に、活動意欲の維持と今後の活動へ繋げることを目的とし、フォロー講座を実施した。

【7月5日】	今後の活動についての意見交換	相良総合センターい〜ら	5名
【10月29日】	視察研修(浜松市 きじの杜、森町 森のこかげ)		19名
【2月16日】	居場所の実施に向けた話し合い		20名
【3月22日】	居場所づくりに向けた話し合い		12名

⑤サポーター派遣事業「あるたす」の実施

サポーターが高齢者宅等を訪問し、“ちょっとした困りごと”への支援を行うとともに、高齢者の見守りと自立した日常生活を送ることが出来るよう支援することを目的に実施した。

支援内容	支援回数	利用単位数
服薬の確認	47	47
話し相手	24	24
食事の準備(配膳)	18	18
窓開け(話し相手)	29	29
掃除	52	109
バス降車時の見守り	10	14
計	180	241

登録サポーター 31名

利用者 7名

※1単位=200円/15分として実施

・あるたす定例会の実施(サポーターの日程調整と活動時に気付いた点等を共有)

【4月27日】	相良総合センターい〜ら	13名
【5月26日】	総合健康福祉センターさざんか	14名
【6月29日】	相良総合センターい〜ら	14名
【7月27日】	総合健康福祉センターさざんか	10名
【8月31日】	相良総合センターい〜ら	20名
【9月28日】	総合健康福祉センターさざんか	16名
【10月30日】	相良総合センターい〜ら	17名
【11月30日】	総合健康福祉センターさざんか	18名
【12月26日】	相良総合センターい〜ら	13名
【1月29日】	総合健康福祉センターさざんか	19名
【2月27日】	相良総合センターい〜ら	20名
【3月29日】	総合健康福祉センターさざんか	21名

⑥サロン協力員ステップアップ研修

サロン協力員の負担軽減と意欲向上を目的に、介護予防の視点を取り入れたサロン協力員のステップアップ研修を実施し、理学療法士を講師に招き普段サロンで実施している活動に対し、アドバイスをもらう機会を提供した。

【8月30日】	相良総合センターい〜ら	33名
【2月26日】	相良総合センターい〜ら	25名

⑦地域資源マップの活用

地域の皆さんと作成した地域資源マップ(平成29年3月作成)を取りまとめ、各区ごとに配布し、公民館での保管と活動希望者へ情報提供できる体制を依頼した。また、主任ケアマネジャーと地域資源マップを用いた勉強会や、協議体での“出掛ける場づくり”の地域選定の際に活用した。

【6月8日】	主任ケアマネジャーとの勉強会	13名
【9月5日〜】	区長、公民館へ地域資源マップの報告と依頼	

⑧生活支援体制整備に向けた地域の基盤づくり

生活支援の体制整備を進めていくには、地域における住民主体の活動や、関係機関を絡めた活動が重要となるため、萩間地区の絆づくり事業に参加しきっかけづくりを行った。

- 【6月2日】 相良清風園、萩間地区と、今後の絆づくり事業での連携について打合せ
- 【6月7日】 萩間地区絆づくり会議への参加
- 【7月7日】 萩間地区絆づくり会議への参加
- 【8月9日】 萩間地区絆づくり会議への参加
- 【8月23日】 清風園の車輛支援により、蕎麦の種蒔きへ高齢者の送迎支援
- 【9月6日】 萩間地区絆づくり会議への参加
- 【10月13日】 萩間地区絆づくり会議への参加
- 【10月17日】 清風園の車輛支援により、東萩間サロンの外出支援
- 【11月6日】 萩間地区住民による清風園美化活動に参加
- 【12月7日】 萩間地区絆づくり会議への参加
- 【2月7日】 萩間地区絆づくり会議への参加

★評価

地域支援事業については、社協だけが検討するものではなく、市や関係機関と連携していくことが重要と考えている。そのため、行政との打ち合わせを重ね、お互いに共通認識がずれないようにしてきた。

昨年度から検討してきた“あるたす”や“協議体”など、新たに具体的な活動の実施に繋げることができた。また、継続して実施している“らいふサポーター養成講座”の修了生が“あるたす”や“高齢者の集いの場づくり”での活動に繋がっていることや、協議体で検討された活動が動き出したりと、地域の担い手による支え合い活動が広がりつつあることを実感出来ている。

★課題

今後に向けては、協議体にて検討され地域課題の解決策として実施していくこととなる具体的な事業と、社協が進めていく“小地域での福祉活動”について、同じ方向性をもって進めていくことができるよう、課内の連携を強めていく必要がある。また、地域の基盤づくりを進めることから住民主体の活動が生まれ、生活支援の体制整備に繋がると考えるため、“地域づくり”を意識した活動を展開していきたい。

施策4 社会福祉協議会への活動支援・組織強化

(1)事業内容について広報活動し、市民の参加、理解を呼びかけた。

①広報活動

再掲(I - 4 - (2) - ①②③④⑤) (P6)

②社協会費(単位:口)

普通会費(1口300円)	特別会費		賛助会費(1口5,000円)
	(普通団体・個人1口1,000円)	(特別団体 1口5,000円)	
11,360口	1,000円 162口	5,000円 4口	199口
3,408,000 円	182,000 円		995,000 円
合計			4,585,000 円

③寄附金

寄附者の属性	件数	金額
法人の役職員	0件	0円
利用者本人	0件	0円
利用者の家族	0件	0円
取引業者	0件	0円
その他	39件	1,293,047円
合計	39件	1,293,047円

④共同募金事業

赤い羽根共同募金は、民間の運動として終戦直後の1947年(昭和22年)に、市民が主体の取り組みとしてスタートした活動。みんなで集めた募金は、自分のまちを良くする活動に使用され、市民自らの行動を応援する募金活動。

一般募金(募金期間:10月1日～12月31日)

種別	金額	備考
戸別募金	3,982,171円	11,468世帯
法人募金	1,527,000円	447社
街頭募金	19,694円	ふれあい広場
学校募金	116,946円	8小学校・3中学校・2高校
職域募金	41,966円	市役所・静岡銀行・社協
その他募金	50,229円	自動販売機・区コミュニティーセンター
合計	5,738,006円	

歳末たすけあい募金(募金期間:12月1日～12月31日)

種別	金額	備考
戸別募金	574,029円	11,468世帯
その他募金	219,971円	明社協
合計	794,000円	

⑤歳末たすけあい事業

共同募金の一環として実施するものである。新たな年を迎える時期に支援を必要とする人達が安心して暮らせるよう民生委員の協力を得て展開する事業

歳末慰問事業対象者:36名 実施期間:平成29年12月1日～12月31日

※平成29年10月1日現在牧之原市在住(相良地区:14名 榛原地区:22名)

[1] 障害児・者のいる世帯(身障手帳1.2級・療養手帳A級・精神障害者保健福祉手帳いずれかに該当)

[2] 高齢世帯で著しく生活にお困りの世帯

[3] 母子世帯・父子世帯で著しくお困りの世帯

※ひとり暮らしの高齢者のおせちセット配付事業

対象者387名、実施日12月27日

給食サービス対象者及び利用していないが、歳末のみ差し上げたい72歳以上(平成29年10月1日現在)のひとり暮らしの高齢者でお正月をひとりで過ごす方(高齢世帯は除く)

☆評価

学生や民生委員児童委員など、多くの協力により募金が集まった。特に給食サービスやふれあい広場など、見守りが必要な方への支援が多くできたと思う。また、おせち配付や慰問金の配付では、ひとり暮らしの方は地域の方々に見守られていることに感謝の言葉が聞けた。

☆課題

年々募金額が減少しているため、事業の見直しを行っている。また、広報啓発活動等を行い、新規協力事業者を募っていきたい。

(2) 事務所間、職員間の情報共有に努め、組織の充実を図ります。

①理事会・評議員会・監査会・経営改善委員会の開催

会議名	開催日	場 所	出席者	主 な 議 事
第1回理事会	29.4.26	相良総合センター い〜ら	6/7	(報告事項) 1.(仮称)デイサービスセンターうたり新築工事の入札手続き等について 2.今後の日程について
決算監査	29.5.16	相良総合センター い〜ら	2/2	平成28年度決算監査 1.事業報告 2.会計経理・資産管理 3.法人組織・運営
第2回理事会	29.5.26	相良総合センター い〜ら	6/7	1.平成28年度事業報告の承認 2.平成28年度一般会計収支決算の承認 3.(仮称)デイサービスセンターうたり新築工事請負契約の締結 4.役員選任規程の一部改正 5.役員(理事、監事)選任に関する内規の廃止 6.役員等の報酬及び費用弁償に関する規程の一部改正 7.旅費規程の一部改正 8.評議員会の招集 (報告事項) 1.平成28年度苦情報告 2.会長の職務執行状況報告 3.デイサービスセンターうたり認知症対応型通所介護について 4.今後の日程について
第1回評議員会	29.6.12	相良総合センター い〜ら	11/13	1.平成28年度事業報告の承認 2.平成28年度一般会計収支決算の承認 3.役員選任規程の一部改正 4.役員等の報酬及び費用弁償に関する規程の一部改正 5.旅費規程の一部改正 6.理事の選任 7.監事の選任 (報告事項) 1.平成28年度苦情報告 2.(仮称)デイサービスセンターうたり新築工事請負契約の締結 3.デイサービスセンターうたり認知症対応型通所介護事業について 4.今後の日程について

会議名	開催日	場 所	出席者	主 な 議 事
第3回理事会	29.6.12	相良総合センター い〜ら	6/7	1.理事会の会長の選任 2.理事会の副会長の選任 3.一般会計補正予算(第1号) 4.定款の一部変更 5.評議員会の招集について
第2回評議員会	29.7.4	相良総合センター い〜ら	9/13	1.一般会計補正予算(第1号) 2.定款の一部変更 (報告事項) 1.牧之原市財政援助団体監査の 実施報告
第4回理事会	29.9.19	相良総合センター い〜ら	6/7	1.一般会計補正予算(第2号) 2.相良デイサービスセンター給湯 設備修繕工事に伴う指名業者選定 3.相良デイサービスセンター入浴 機器購入に伴う指名業者選定 4.(仮称)デイサービスセンターうた り機能訓練機器購入に伴う指名業 者選定 5.(仮称)デイサービスセンターうた り施設利用者用備品購入に伴う指 名業者選定 6.評議員会の招集について (報告事項) 1.会長の職務執行状況報告 2.第1四半期監査結果 3.平成29年度さざんかふれあい広 場について
第3回評議員会	29.9.28	相良総合センター い〜ら	8/13	1.一般会計補正予算(第2号) (報告事項) 1.第1四半期監査結果 2.平成29年度さざんかふれあい広 場について
第5回理事会 書面決議	29.10.5		7/7	1.相良デイサービスセンター 入浴機器購入契約の締結
第6回理事会 書面決議	29.11.17		7/7	1.(仮称)デイサービスセンターうた り機能訓練機器購入契約の締結 2.(仮称)デイサービスセンターうた り施設利用者用備品購入契約の締 結

会議名	開催日	場 所	出席者	主 な 議 事
第7回理事会	29.12.18	相良総合センター い〜ら	6/7	1.経理規程の一部改正 2.一般会計補正予算(第3号) (報告事項) 1.第5回及び第6回書面議決による 理事会について 2.社会福祉協議会監事が実施した 定期監査の結果について 3.第4回評議員会の書面議決につ いて 4.(仮称)デイサービスセンターうた り新築工事に伴う附帯工事につ いて 5.松川町社会福祉協議会との災害 協力について 6.牧之原市社会福祉大会について
第4回評議員 会書面決議	29.12.24		13/13	1.一般会計補正予算(第3号)
第8回理事会 書面決議	30.1.23		7/7	1.相良デイサービスセンター給湯 設備修繕工事契約の締結 2.(仮称)デイサービスセンターうた り新築工事に伴う附帯工事契約の 締結
第9回理事会	30.2.17	相良総合センター い〜ら	7/7	1.(仮称)デイサービスセンターうた り新築工事変更契約の締結 2.育児休業等に関する規程の一部 改正 3.介護休業及び介護短時間勤務 に関する規程の一部改正 4.就業規程の一部改正 5.職員給与規程の一部改正 6.職員給与細則の一部改正 7.パートタイマー等の給与規程の 一部改正 8.パートタイマー等の就業規程の 一部改正 9.組織の一部変更 10.公印規程の一部改正 11.経理規程の一部改正 12.一般会計補正予算(第4号) 13.事業計画について 14.一般会計予算(案)について 15.監事の推薦 16.評議員会の招集 17.事務局長の選任 (報告事項) 1.第8回書面議決による理事会に ついて 2.会長の職務執行状況報告につ いて

会議名	開催日	場 所	出席者	主 な 議 事
第5回評議員会	30.3.5	相良総合センター い〜ら	11/13	1.職員給与規程の一部改正 2.職員給与細則の一部改正 3.パートタイマー等の給与規程の一部改正 4.組織の一部変更 5.一般会計補正予算(第4号) 6.事業計画について 7.一般会計予算(案)について 8.監事の選任について その他 1.(仮称)デイサービスセンターうたり落成式について
第10回理事会 書面決議	30.3.16		7/7	1.バス購入に伴う指名業者選定

(3) 人材の掘り起こし並びに人材の確保を行うとともに、新規スタッフに対して講習を実施し、スキルの向上に努めた。

①求人活動

ハローワークやロコミ、広報紙、福祉大学などによる求人募集を行った。
また、総合職に限らず経理職の募集も実施した。

②雇用促進への取り組み

障がい者の方が就労しやすい環境づくりに勤め、就労しやすくした。

③スキルアップについて

新規採用職員を採用した為、県社協の新人研修への参加をした。各部署ごと、必要な県内外の研修に参加した。また、新規採用職員等に入社前の事前説明会を実施した。

★評価

両デイサービスセンターの備品購入に伴い理事会及び評議員会を臨時的に開催した。また、外部研修には各部署ごとに参加し、ミーティング等で共有している。

★課題

介護職及びケアマネジャーの募集をしているが、人員補充が出来ておらず人員不足の解消が出来ていない。

社協会費は年々減少している。会費の増額を行えば市民への負担となってしまうため、会費以外の収入増や支出を再検討する必要性がある。

その他:福祉団体等の支援

(1)社会福祉協議会は下記福祉団体等の事務及び補助を行っております。

- ①牧之原市老人クラブ連合会(シニアクラブ牧之原) (支援内容:総会、GG・輪投げ大会等)
 - ・シニアクラブ牧之原相良支部
 - ・シニアクラブ牧之原榛原支部
- ②牧之原市身体障害者福祉会
- ③牧之原市手をつなぐ育成会
 - ・青年学級
 - ・ひまわり会
- ④牧之原市遺族会 (支援内容:慰霊祭、総会、役員会等への協力支援等)
 - ・遺族会相良支部
 - ・遺族会榛原支部
- ⑤牧之原市ボランティア連絡会 (支援内容:総会、ふれあい運動会、夏の出前講座、交流会、視察等)

(2)社会福祉協議会は下記福祉団体等へ補助を行っております。

- ①牧之原市子ども会連絡協議会
- ②NPO法人精神保健福祉みどり会
- ③榛原地区相良更生保護女性会
- ④榛原地区榛原更生保護女性会
- ⑤榛南断酒会
- ⑥榛原地区保護司会相良支部
- ⑦榛原地区保護司会榛原支部
- ⑧法務省榛原保護区榛原地区保護司会
- ⑨明るい社会づくり運動静岡県牧之原市地区協議会(榛原地区)